

医療者と患者さんの協働による
セルフメディケーションに向けた
シンポジウムの開催、及び啓発資材の作成

ペイシェントサロン協会 代表

すずき のぶゆき
鈴木 信行

医療者と患者さんの協働によるセルフメディケーションに向けた
シンポジウムの開催、及び啓発資材の作成

ペイシェントサロン協会代表 鈴木 信行

〒113-0031 東京都文京区根津 1-22-10
03-3821-3933

1、啓発事業実施目的

一般用医薬品・要指導医薬品によるセルフメディケーションを国内において広げるためには、以下の観点が必要である。

- ・市民にとって、かかりつけ薬局を持ち「自身の健康管理する」という意識の変革
- ・薬局経営者や管理薬剤師にとって、患者の自己管理の意識変容活動を行い、成功している事例を知り、自局でも導入できる観点とスキル

一方で、我々は日頃より薬剤師等の医療職と患者の合同イベントをすでに80回近く開催しており、意識変容につなげるノウハウを蓄積してきた。

そこで、医療専門職と慢性疾患患者の両側面からセルフメディケーションの重要性を認識し、慢性疾患をもつ患者に理解してもらうとともに、実際に我々のノウハウを使い成功している事例を薬局経営者や管理薬剤師に知っていただくことで、広くセルフメディケーション文化を広めていく。

2、啓発事業実施方法および内容

2-1 シンポジウムの開催

2-1-1 開催概要

目的：市民向けにセルフメディケーション意識の向上を目指す

概要：

第1部：下記の演者による講演

1. 堀里子氏（東京大学大学院情報学環 准教授・薬剤師）

「セルフメディケーションに関する基本的な考え方」

2. 根本ひろ美氏（茨城県薬剤師会常任理事・地域医療委員会担当 薬剤師・介護支援専門員）

「地域住民とともに進めるセルフメディケーションの実例」

3. 宿野部武志氏 ((株) ペイシエントフッド代表取締役)

「市民がセルフメディケーションに取り組むための、薬剤師への期待」

4. 鈴木信行 (ペイシエントサロン協会会長・がん患者)

「患者協働の推進への取り組みと今後」

第2部：ワールドカフェ手法を用いた市民参加の対話

テーマ「セルフメディケーション社会の実現に向けて」

テーブルテーマ

- ・薬局・薬剤師へ期待すること
- ・患者・市民へ期待すること
- ・行政・地域へ期待すること
- ・医療者・病院へ期待すること

2-1-2 演者紹介

(1) 堀里子氏 (東京大学大学院情報学環 准教授・薬剤師)

医薬品適正使用・育薬と医療安全の推進を目指し、医薬品情報の収集、解析・評価、創製、提供に関する研究を行う。研究成果を社会に還元する NPO 活動<医療者(薬剤師、医師、登録販売者)間情報交換システムの運営、各種薬剤師研修セミナーの開講等>や、市民向けの活動「みんくす」(<https://minkusu.ikuyaku-ut.jp>)にも取り組む。

(2) 根本ひろ美氏

(茨城県薬剤師会常任理事・地域医療委員会担当 薬剤師・介護支援専門員)

県立の重症心身障害者施設に併設の病院勤務が私の薬剤師業務の始まり。

(薬物療法の個別差、環境差等を目の当たりにして薬剤師の責任の重大を知る)

33歳の時、小さな一人薬剤師の OTC 中心の薬局を開設して独立。

お客様たちの関わりの中で、介護支援専門員の資格を取る。当時から自分の薬局に来てくださる「お客様の役に立ちたいと言う想い」から地域に出ている、お節介おばさん薬剤師。

ねもと薬局グループ：<http://www.nemoto-drug.com>

(3) 宿野部武志氏 ((株) ペイシエントフッド代表取締役・腎疾患患者)

1968 年生まれ。3 歳時に慢性腎炎に罹患。18 歳より慢性腎不全により透析導入。現在透析歴 30 年目。2008 年腎臓がんにより左腎臓を摘出。身体障がい者。

(株) ペイシエントフッド代表取締役・Web サイト じんラボ 所長・社会福祉士。

腎臓病の闘病、透析を受ける当事者としての経験と想いを腎臓病・透析患者・家族、そして医療の現場に還元すべく、講演・ワークショップ、研修事業、コンサルティングなど幅広い事業を展開。<所属> NPO 法人患者スピーカーバンク副理事長・NPO 法人東京腎臓病協議会 青年部副部長 (元理事)・世田谷区身体障害者相談員。

じんラボ：http://www.jinlab.jp/

会社 HP：http://www.patienthood.net/

(4) 鈴木信行（ペイシェントサロン協会会長・がん患者）

1969年生まれ。生まれつきの疾患「二分脊椎症」による身体障がい者。精巣がん（20歳）のがんサバイバー。さらに現在は甲状腺がん患者として闘病中。

北里大学薬学部非常勤講師。

患者の立場から、患者と医療者がともに学ぶ場を全国に広めたいと2013年からペイシェントサロン活動に着手。2015年ペイシェントサロン協会を設立、会長に就任。

2-2 シンポジウム講演録の作成、及びウェブの作成

2-1で開催したシンポジウムの内容を、文字に起こし冊子化するとともにウェブに掲載し、広く周知できるようにする。さらに、ペイシェントサロン協会が行うイベントの開催ノウハウをテキストにまとめ、各地で開催できる基盤を作る。

3、啓発事業成果

3-1 シンポジウム開催

3-1-1 開催概要

当初の計画通り、下記の通りシンポジウムを開催した

テーマ 患者協働のセルフメディケーション社会の実現に向けて
～薬剤師と患者の声から～

開催日時 2016年10月22日 13時～17時

第1部 講演会

第2部 ワールドカフェによる全参加者による対話

開催場所 東京大学福武ホール

参加者 24名

第1部 講演会の様子と結果



参加者の集合写真



講演者の堀里子様



講演者の根本ひろ美様



講演者の宿野部武志様



当会代表 鈴木信行

3-2 シンポジウム講演録の作成、及びウェブの作成

シンポジウムでご講演いただいた4名の方の講演録を冊子にまとめ、ペイシエントサロン協会会員（24名）、および演者や本会の開催にあたりご協力いただいた皆様へ送付した。また、その内容をホームページに掲載し、内容を閲覧できるようにした。



3-3 ペイシエントサロンテキストの作成

セルフメディケーションの意識を市民に広く伝えていくには、今回のようにイベントのようにするのは有効である。

そこで薬局などで市民向けのイベントを開催できるようにするノウハウ集としてテキストを作成した。特に、私たちが得意とする「ペイシエントサロン」のスタイルをわかりやすく掲載し、薬局で市民向けのイベントを開催できることを目指した。



4、考察

今回の講演会においては、大学研究者によりセルフメディケーションの意識とはどのようなものであるかという概念を認識し、次に実際に薬局の経営者として市民向けに幅広く活動している薬剤師から実例を紹介していただいた。さらに患者の視点からセルフメディケーションに取り組んでいる方の状況を解説していただくことを通して、市民一人ひとりのセルフメディケーションの方策があることを、参加者が気づいたと考えられる。

また、その後に、参加者全員が意見や経験を発言できるワールドカフェという手法をとることで、より広い視点を持つことができた。

なお、計画時には講演を動画にて撮影し、ウェブで公開する予定であったが、予算削減が必要となり今回は見送った。

5、まとめ

セルフメディケーションの意識を市民に持っていただけるように、シンポジウムとして講演会、及び参加者が全員参加するワールドカフェを開催した。また、その講演録を作成し、冊子およびホームページにて広く公開した。さらに、セルフメディケーションの意識を広めるためのイベント開催ノウハウをまとめたテキストを作成し、関係者に配布した。それらを通して、今後、ますます市民の意識が変容していくことを期待する。

6、資料、表、図及び写真など

シンポジウムの写真を参考として添付します。



在宅ケアを推進する薬剤師と
訪問看護師の協働に必要な場づくり

帝京科学大学 医療科学部 看護学科 准教授

さだむら みきこ
定村 美紀子